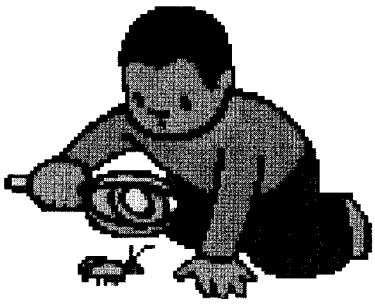
第Ⅳ章

具体的な指導・支援のマップを描こう
～指導計画の作成～



この章では・・・

いよいよ具体的な個別の指導計画を立てていきます。前章では、大まかな目標の方向性についてみてきましたが、ここではその達成に向けていかに具体的な目標に細分化できるか、そのための指導・支援はどのようにするかについて考えていきます。

● 指導計画の作成でのポイント

このプロセスでのポイントをみていきましょう。

指導計画の作成でのポイント

①子ども主体の目標である
②肯定的な目標である
③目標が1つにしぼられている
④観察および評価(○×)可能な目標である
⑤条件が示されている
⑥基準が示されている
⑦子どもの強い力を利用できている
⑧課題の順序が適切である
⑨手だての量が適切である
⑩必要に応じて、計画の見直しや修正を行う

● このプロセスでとらえること　～「えがお君の場合」～

ここでは次のような内容をおさえます。

例）

えがお君の個別の指導計画を具体的に立てた。

長期目標は「習った漢字を作文の中で使える」「長い作文を書くことができる」にした。

短期目標は「3年生の漢字 100 字（チェックリスト「悪～研」）について、間違った漢字を示された際、その部分を修正することができる（ 80%以上）」「クラスの漢字テストで毎回10問中7問は正解する」「指導者によるモデルの作文を見た後、（指定された）接続詞を使って 10 行程度の作文を書くことができる」にした。（←ポイント1，2，3，4，5，6）

えがお君は、聞いて覚えることが得意（聴覚型学習者）と思われるので、漢字を覚える時は、ことばによる意味づけやゴロなどで覚えられるよう、教材を工夫しよう。（←ポイント7）

「書く」領域については、作文の中で漢字を使用できるよう、まずは習得漢字を増やす。それから、 作文の中で使えることをターゲットにしていこう。（←ポイント8）

手だての量については、漢字を覚える際の意味づけやゴロのヒント、作文のモデル提示でよいだろう。パソコンについては、様子をみながら導入の仕方を考えることにする。（←ポイント9）

計画をもとに指導を展開し、必要に応じて柔軟に見直しや修正を行うつもりである。（←ポイント10）

● 具体的(簡潔)かつ観察・評価可能な目標とは？

指導計画の作成の段階でいわれる目標とは「短期目標」のことです。「長期目標」が全体的なフレームワークとすると、「短期目標」はその中に属するより具体的な目標といえます。たとえば「今年中にフランス一周旅行を達成する」といったことを決めたとします(これが長期目標にあたるでしょう)。それを実現するためには「お金を○月までに○○円貯める」「日常会話程度のフランス語をマスターする」「フランスの生活事情(交通、宿泊、気象 etc 、)についての情報を得る」などのプランをあれこれ立てるのではないでしょうか。つまり、 最終的な目標を達成するために、具体的にイメージがわくような目標を立てていくのです。これがまさに「短期目標」といえます。そこで、いかに具体的に目標を表現できるかを考えたいと思います。たとえば「子どもがかけ算を理解する」といった短期目標を立てたとしたます。しかし、子どもが理解したかどうかは、子どもの内面で起きていることなので、外からではうかがい知ることはできません。それでは、「かけ算九九をすべて間違わずに言う」「2桁×1桁のかけ算を5つ連続で間違わずに計算する」といった目標の表現にしてはどうでしょう？このような行動に表れる表現方法であれば観察可能であるし、複数の人がみてもみな同じ評価をすることができます。

ここでは具体的に、短期目標を設定する際、利用できる語いについて紹介します。これは、ブルーム(Bloom,B.S.)の認知過程における行動に関する語いを参考にしてあります。学習を「知識」「理解」「応用」「分析」「統合」「評価」といった過程に分け、それぞれの過程での長期目標の例と短期目標として利用可能な語いを挙げています。

個別の指導計画の目標として利用できる語い

＜過程＞	＜長期目標の例＞	＜学習の結果・成果を表す語い・短期目標として利用可能な語い例＞
1．知識 学習した内容を適宜思い出すことができる。最も基礎的な段階。	・共通用語を知る ・方法や手順を知る ・基本的な概念を知る	定義する，記述する，同定する，列挙する，選ぶ，概略を述べる
2．理解 学習した内容の意味を正確に把握することができる。単に思い出すというより，覚えたことを自分の表現で言い換えることが可能な段階。	・式の意味をことばで説明する ・原理を理解する ・表やグラフを解釈する ・データから予測する	説明する，例を挙げる，予測する，要約する，言い換える，書き直す
3．応用 学習した内容を新しい状況や具体的な状況に利用することができる。理解の段階から一歩進んだ段階。	・概念や原理を新しい状況に応用する ・算数の文章題を解く ・図や表にする	表す，作る，解く，利用する，操作する，予測する，修正する
4．分析 学習した内容を 互いがどう関連しているかがわかるよう，要素に分解することができる。内容面の理解と，全体的な構造面の理解，両方を必要とする。	・事実と仮定を区別する ・データを分析する ・行間を読み取る	細かく分類する，区別する，推論する，指摘する，図示する，関連づける
5．統合 学習した内容を要素に分解し，それを新しい形に再構成することができる。ここでは，新しいことの創造が強調される。	・よくまとまった発表をする ・創造的な詩を書く ・実験の計画を立てる	編集する，組み立てる，一般化する計画を立てる，再構成する，関連づける，書く
6．評価 学習した内容を与えられた目的のもと，その価値を判断できる。最も高度な段階。1～5全ての能力を必要とする。	・書かれている内容の論理的な一貫性を評価する ・データと照らし合わせて結果が適切か判断する ・外的な基準（目的と照らし合わせて）に従って，作品を評価する	比較する，記述する，説明する要約する，支持する，区別する，結論づける，批評する

● 短期目標の設定の仕方

長期目標と短期目標の具体例をみてみましょう。

長期目標と短期目標の例

長期目標①熟語を知る

→ 短期目標 ①-1)該当する熟語の定義を言う

①-2)その熟語を使った例を挙げる

①-3)その熟語の類義語を挙げる

①-4)その熟語の反対語を挙げる

長期目標②熟語を理解する

→ 短期目標②-1)該当する熟語を自分のことばで定義する

②-2)その熟語の正しい使い方と誤った使い方とを区別する

②-3)その熟語の意味を文脈の中で説明する

②-4)意味の似ている2つの熟語について似ている点と異なっている点を記述する

長期目標③熟語を文章(書いたもの)の中で応用する

→ 短期目標③-1)考えや行動、出来事を記述する際、最も適した熟語を選ぶ

③-2)与えられた熟語を使って単文を書く

③-3)与えられたいくつかの熟語を使って段落を書く

③-4)文章を書く際、新しい熟語使う

● 長期目標と短期目標の関係（2つのタイプ）

長期目標に対して、短期目標の立て方には以下のようなタイプがあります。

①長期目標に対して短期目標が、段階的、順次的に述べられるもの

②長期目標に対して短期目標が、単に並列的に、異なる特徴として述べられるもの

各タイプの例を紹介します。

長期目標と短期目標の関係

①のタイプ（短期目標が、段階的、順次的に述べられるもの）

長期目標1）余りのあるわり算のやり方を習得する

→ 短期目標 1.1)九九がすべていえる

1.2)2桁×1桁の計算ができる

1.3)2桁×2桁の計算ができる

1.4)2桁÷1桁の計算ができる

1.5)2桁÷1桁のあまりのある計算ができる

②のタイプ（短期目標が、単に並列的に、異なる特徴として述べられるもの）

長期目標 2 ）原稿用紙1枚分の作文を書く

→ 短期目標 2.1)接続詞（「そして」「しかし」）が使える

2.2)会話文を入れることができる

2.3)形容詞または副詞を用いることができる

2.4)比喩の表現を入れることができる

2.5)気持ちの表現を入れることができる

● 短期目標の中に含む条件とは？どのような手だてを用意したらよいか？

短期目標をより具体的にするために、短期目標の中では条件に関する記述を添えます。これらの条件を示すことにより、「目標が明確」になるのはもちろんのこと、それに伴って「評価の際の視点も明確」になります。

また、短期目標が具体的に決まったら、次はいよいよ目標達成に向け、それをサポートする手だてを考えていきます。どのような手だてを行うか考えるのは、楽しくもあり、また頭を悩ませることでもあります。ひとつの手がかりとしては、先の「短期目標に含まれる条件」の項目が参考になります。たとえば「言語的な指示に何か工夫する必要はないか？」「指示する際、視覚的な提示をしたり、何か教材を工夫する必要はないか？」といったように読みかえられます。

この表をみながら、子どもが目標達成するために必要な手だてをチェックしていけば、必要な支援が抜け落ちることも避けられます。

短期目標の中に含まれる条件と手だての観点

＜条件／手だての種類＞	＜例＞
◇言語的な要求や指示に関すること	(条件)「口頭でのルール説明で、」 (手だて)「短いことばで言う」
◇視覚的に示された指示や教材に関すること	(条件)「内容が視覚的に示された文章をみて・・・」 (手だて)「算数の文章題の説明を視覚的に行う」
◇デモンストレーションに関すること	(条件)「教師が折り紙を折るのをみて・・・」 (手だて)「長さの比べ方を実際にみせる」
◇ツール(道具)や教材に関すること	(条件)「マス目のある用紙が与えられたとき・・・」 「4年生相当の文章題が与えられたとき・・・」 (手だて)「計算機を用意する」 「1学年下の計算問題を用意する」
◇環境設定に関すること	(条件)「小グループ活動において・・・」 (手だて)「注意が拡散しないような部屋で行う」
◇支援の仕方に関すること	(条件)「隣で教師が教科書の内容を読むのを聞いて・・・」 (手だて)「課題が終わるごとに子どもと一緒にふり返る」

● 目標達成の基準

短期目標の中に基準を含むとはどういうことでしょうか？たとえば、「あまりのある割り算を正確に解く」という短期目標を設定したとします。この場合、全問正解でなければ目標達成とみなされないのか、それとも10問中8問できればよしとするのか、目標の達成基準を明確にしておくことが必要になります。また業者テストの得点で判断するのか、教師作成のテストで判断するのか、どのような評価方法を用いて判断するのかも決めておかなければなりません。

これらを決めておくことで、「目標が明確」になり、ひいては「評価の際の視点も明確」になります。

目標達成の基準

◇ **80%できる**

◇ **10問中7問以上できる**

◇ **算数の授業の間、・・・・できる**

評価の方法

◇ 教師自作のテストで評価

◇ 教師による観察(授業中の発言、子どもの様子)で評価

◇ 子どもの作品(ノート、ワークシートetc.)で評価

◇ 標準学力テスト、業者テストで評価　など

目標を立てる時点で基準をもりこむことが難しい場合には・・・

目標を立てる時点で、達成基準や評価方法についてもりこむことが難しければ、評価の段階で「80%できた」「算数の授業時間中、・・・できた」などの達成基準を評価結果の記述に明記するようにします。これらは、次の実態把握の際の重要な情報になります。

● 子どもの得意な学習スタイルを指導に活かす

「話を聞くととても理解できる！」という人、「絵で描いてもらうとわかる！」という人、いろいろな人がいると思います。子どもも同じです。こうした子どもの学習スタイルに合わせて、支援の方法も複数用意できたら・・・とてもすばらしいことでしょう。ここではそのような学習スタイル、とりわけ2つのタイプについて表を使って紹介します。

1つが、「分析的な思考」のタイプ、もうひとつが「包括的な思考」のタイプです。これらのタイプ別に「計画の仕方」「物事の捉え方」「記憶の仕方」「得意な指示の方法」「得意なテスト形態」「学習方法」「考え方」を示しました。

さらに、「分析的な思考」タイプの人は、聴覚型学習者（耳からの学習が得意）に多く、「包括的な思考」タイプの人は、視覚・触覚型学習者（目で見たり、実際に触れて学習するのが得意）に多いようです。

この学習スタイル表は、以下のように使います。

①前もって、「この子は分析的な思考・聴覚型」「この子は包括的な思考・視覚・触覚型」など、わかっている（予想がつく）場合には、表にそって縦に、「テストの形態は〇〇が得意なのか！」「学習方法は〇〇か！」と、その子どものスタイルに合ったやり方を探していくことが可能です。

②何型かわからない場合には、逆に、その子どものいつもの様子と、表に挙げた「物事の捉方」「記憶の仕方」などをの特徴を照らし合わせ、どちらのタイプかを探ってみます。それを行った上で、改めて子どものタイプに合ったやり方を確認していきます。

これらのタイプに何から何までぴたりとあてはまるということはないかもしれません。しかし、支援の第一歩として、このような考え方からはじめてみて、合わない場合には、その都度調整していき、その子によりフィットした支援に近づけていければよいと考えます。

その子どもの得意な学習スタイルを知ることで、支援の手だては見えやすくなるでしょう。

学習スタイル（Learnig　Styles）

	分析的な思考タイプ （聴覚型学習者に多い） 	包括的な思考タイプ （視覚・触覚型学習者に多い）
◇計画について	・事前に計画を立てる ・カレンダーに記入する ・リストを作る	・思うままに行動 ・まずは体験
◇物事の捉え方	・細部まで捉える 「ちょうどその時・・・」	・全体として捉える 「だいたい・・・」
◇記憶について	・聞いたことについての記憶は得意	・見たり、経験したことの記憶は得意
◇指示の仕方	・１つ１つ指示を提示されるとわかりやすい	・最初に、全体像をみせられるとわかりやすい
◇テストの形態	・オーソドックスなテスト形式（多肢選択、正誤判断、 作文、論文）が得意	・筆記にこだわらないやり方で表現できる機会を与える
◇学習方法	・継次的に考えを進める ・具体的、論理的に進めていく ・分析的に順序立てて考える	・オープンエンドで考えを進める ・新しい発想を生み出す ・直喩や暗喩を通じて学ぶ
◇考え方	・論理的、分析的、継次的 ・原因と結果に着目 ・差異に注目 ・一つ一つ理解していく ・シンボリック（象徴的）な内容の理解	・直感的、任意的（ランダム） ・類似点と関連性に着目 ・全体から部分へと理解を進める ・具体的なことからシンボリックなことへ考えを進める

● 個別の指導計画の具体例　～「えがお君を例に」～

ここでは、具体的な個別の指導計画の例を2つ挙げたいと思います。

1つは、特別な場における指導を想定した個別の指導計画です。書式に関するポイントは、以下のようになります。

◇「長期目標」と「短期目標」とを明確に対応させるようになっている
◇「短期目標」にはそれぞれ手だても併記できるようになっている
◇ 評価の欄が「目標に対する評価」と「手だてに対する評価」の2つに分かれており、子どもにとって有効な手だてが把握しやすいようになっている
◇ 目標と評価、その結果を受けた上で次にどのような目標にするかが、横に連続して記されるようになっており、関連性が把握しやすいようになっている

2つめは、通常の学級での指導を想定した個別の指導計画です。以下が書式に関するポイントです。

◇個別指導のための計画ではなく、通常の学級(集団)の中で、対象とする子どもに対してどのような支援(配慮)ができるかといった視点に立って作成される
◇学校教育の中で捉えやすい教科ごとに目標や手だてを設定できるようになっている
◇すべての教科について目標を立てるのではなく、必要と思われる教科のみを取り上げて、目標を立てるようになっている
◇「実態」と「目標」との間で一貫性(つながり)をもたせるため、「実態」の欄を「目標設定の理由」とし、子どもの「実態」と「目標」とがつながりやすくなっている
◇ 「子どもの目標に対する評価」欄と、「(指導者自身の)手だてへの評価」とを分け、両者を明確に分けて把握できるようになっている

＜例１＞

個別の指導計画

氏名	生年月日　　年　　月　　日（　歳　カ月 学年 小５） 記載時２０△２年　３月１８日（記載者　○○○○　　）	指導形態　週（／）月　１　日（水）曜日：　時間：　集団　／　個別（） 指導領域　聞く／話す／読む／書く（）／計算する／推論する／行動 社会性
えがお 君		

長　期　目　標	設定日	評価（予定）日	評　　価
①　習った漢字を作文の中で使える	20△1 4/22	(20△2年3月) 3/18	(＋) 辞書があれば100%習った漢字を用いることができた。独力だと、形が似たものと書き間違えたり、思い出すのに時間がかかった。何も見ずに書くことにこだわる必要はないと思われる。
②　長い作文を書くことができる	20△1 4/22	(20△2年3月) 3/18	(＋) 達成できた。内容的には豊かだが、依然書字自体が困難である。パソコンについてもキー操作がまだぎこちない。パソコンの操作を練習する必要があるように思われる。
		(　年　月)	(　)

対応する長期目標	当期（1／16～3／13）の短期目標と手だて	評　　価	対応する長期目標	来期（4／15 ～7／15 ）の短期目標と手だて
①	目　標　４年生の漢字100字（チェックリスト「賞～録」）について、間違った漢字を示された際、その部分を修正できる（教師自作のテストで80%）。	(－) 正答率は70%だった。		目　標　５年生の漢字（読み仮名のみ）が入った短文を、辞書を見ながら100%漢字になおすことができる
	手だて　修正できなかった漢字は、本人に正しい漢字（形）の特徴について言語化させる。	(－) 形の特徴を言語化しづらい漢字も多く（例「良、包」）、本人もとまどっていた。（言語化の力はだいぶついてきているように思う）		手だて　はねやとめ等、細かい部分まで正確でなくてもよいことにする。電子辞書も用意する。
①	目　標　作文の中で、今まで習った漢字については100%使用できる。（辞書を引いても可）	(＋) 本人自身、漢字を使いたいという意識があるため、積極的に辞書を活用していた。辞書があれば100%正しく漢字を用いることができた。独力で、正しい漢字を書くことは難しかった。		目　標
	手だて　まずは独力で取り組んだ上で、それ以上難しい場合には辞書を使用させる。	(＋) 独力で漢字を書こうとする姿勢はあまりみられなかった。辞書の使用は本人にとって有効であった。電子辞書の使用も視野に入れてよいかもしれない。		手だて
① ②	目　標　接続詞、会話文、比喩を使って原稿用紙１枚分の自由作文を書くことができる（パソコンで書いても可）。	(＋)　接続詞や会話文、比喩等、すべて適切に用い原稿用紙１枚以上の作文を手書きで完成させた。内容は豊かだが、字の読みにくさが目立った。		目　標
	手だて　書く前に構想を話させる。今までの学習内容（内容をふくらませるコツ）を一覧表にして示す。	(＋)　書く前に、指導者からの質問に答えることで内容をふくらませやすくなったようだ。また、一覧表を自分でチェックしながら作文していた。パソコンについては、キー操作の練習が必要。		手だて

＜例２＞　　平成○年度

個別の指導計画

対象児	５年 ○ 組（名前）　○○○○	記載日	平成 ○ 年９ 月 １ 日～１０月１５日	記載者	△△△△

	単元名	本児の目標	目標設定の理由（本児の実態）	目標についての評価
教科全体		自分の得意なことやがんばったことを他の人に伝えることができる。	自己評価が低い。得意な面、がんばっている面があることを自分で認める必要がある。	○
国	調べたことを整理して書こう	①自分の調べたことをワークシートにまとめる。 ②漢字テストで毎回 10 問中７問正答する。	調べることは好きだがそれをまとめることが難しい。ワークシートであれば負担が軽減されるだろう。 漢字に対して苦手意識があるが、練習をして満点をとった時、とてもうれしそうだったので。	①は○ ②は○
算	四角形をつくろう	①垂直、平行、および平行四辺形、台形、ひし形の特徴をことばで表すことができる。 ②垂直、平行、および平行四辺形、台形、ひし形を弁別することができる。	この単元は本児にとって困難と思われるので。作図については、細部の正確さまで要求しない（目標にかかげない）ことにする。それぞれの特徴をおさえられればよい。次の面積の学習につなげられればと思う。	①は○ ②は× （平行四辺形とひし形の弁別が十分ではなかった）
社	工業地域と工業生産			
理	台風と天気の変化			
音	気球に乗ってどこまでも（合唱）			
図	ザラザラ画面 ＜専科担当記入＞	表したいことをことばで表現しながら取り組む。	ことばでの表現は得意なのでことばでイメージを膨らます。	○
体	バスケットボール マット運動	作戦会議の時、チームの中で作戦を一つでも提案する。	ボールを使ったゲームでは以前消極的だったから。	○
家	作って楽しく使おう ＜専科担当記入＞	何を作るか自分で決めることができる。支援を受けながらでも完成させる。	アイデアは豊富なのでこの点で有能感を味わわせたい。作業は難しいので支援が必要。	○ 友だちの支援もあり完成。
生活面		自分の決められたロッカーに道具をしまう。	場所を間違え他児のロッカーへ道具を片づけることがある	○
家庭	家庭での漢字練習が定着してきている。漢字練習に対する保護者と教師のコメントを読むのが楽しみのようだ。			

	具体的な手だて	手だてへの評価
教科全体	得意な面、がんばっている面について、本児に頻繁に伝える。 クラスでも披露する場面を作る。	○
国	ワークシートに調べたことを書き込めるようにし、書くことへの負担を軽減する。 資料をコピーして貼ってもよいことにする。 成果をクラスで発表し、評価することで、有能感を高める。 漢字についてはマスの大きい練習プリントを渡す（他児も必要に応じて選べるようにする）。 練習プリントに保護者のチェック欄を設け、みてもらう。	○ （すべて手だてとして有効であった）
算	ワークシートを用意し、特徴を書き込めるようにする。 身近なものの中からこれらの特徴をもつもの（具体物）を用意しておく。 作図については手順を順次的に示す。	△ （各々の特徴の違いを明瞭にするワークシートを作成すべきだった）
社		
理		
音		
図	技術面では支援を行う。説明の際、本児のものをモデルにして話す。	○
体	グループ構成の際、配慮を行う（本児と仲の良い児童と同じチームにする）。	○
他の教科	アイデア発表の時、本児に発表させる。 支援が必要な際に求められる雰囲気をクラス全体に作る。	○
生活面	わかりやすい場所（最上段の左端）を確保する。 本児がわかるよう目印をはる。	○
家庭	漢字プリントのチェック欄により、進度を把握してもらう。 苦手な部分での本児のがんばりを認める機会を作ってもらう。	

設定日	長期目標（年間目標）	（評価予定日） 評価日	評価
4/25	・学年相当の算数の概念を理解する ・本児の得意な国語（書字以外）に関して自己有能感を高める	（翌年 3/19 ） （翌年 3/19 ）	

● 目標を考えていく上で大切なこと part2

目標を考えていく上で、大切なこと(後編)をお話ししたいと思います。

1つめは、目標を立てる際、子どもにとって肯定的な目標にするということです。「・・・しない」といったネガティブな表現でなく、「・・・できる」といったポジティブな表現にします。

個別の指導計画は、子どもに対し秘密にするものではなく、(中心にいる)子どもにとってもわかりやすい計画をめざすべきです。それを子ども自身が知ることで、自分の学習のゴール、どのようなプロセスで進んでいくかが理解できます。子どもにとってもわかりやすいことばで書くということも心がけたいことです。

Quiz

下に書かれている短期目標は、修正・改善すべき点がいくつかあります。考えられる点を挙げてみましょう。

「文章を理解する力をつけさせる」

＜答え＞

修正・改善すべき点

・目標の主語が教師(指導者)側である。

・理解する力をつけるというのは、どのような観点で評価すべきかが明確でなく、具体的でない。

・どういう条件(何年生相当の文章？聞いて答えるのか、読んで答えるのか等)が明確でない。

・どれだけの基準(100%、80%)に達成すれば、目標達成なのかが明確でない。

＜修正案＞

(○○さんは、)3年生の教科書を自分で読んで、それに関する教師が作成した問題に7割以上答えることができる